

## 第3分科会

話題：相互理解を深めるための努力と課題、できること、やるべきこと

参加者	自治体関係者	9名
	中間処理関係者	6名
	事業者関係者	13名
	コーディネーター・書記	2名
		合計 30名

### (1)自治体での取り組み事例から(横浜市)

- ・ 発生抑制を目的に流通業界(スーパー、百貨店、地域生協、コンビニエンスストア)とG30 エコパートナー協定を結んで、活動結果を市のホームページで公表している。
- ・ 自治体側は協定事業者の取り組みを市のホームページや広報媒体を利用し積極的にPRしたいと考えているが、数値目標などを入れることに対しては難しい面がある。
- ・ 百貨店などは包装紙や紙袋自体が広告媒体になっている面があり、これらを減らすことに対してはまだまだ後ろ向きである。契約を止めた百貨店もある。
- ・ レジ袋を有料化した店舗では80～90%削減できた実績があり、やはり有料化による効果は大きい。
- ・ 子供の頃から理解をしてもらうために小学校で副読本教育をしたり、大学の学生ネットでPRや啓発イベントをしたり、G30 コーディネーター育成により地域に広める活動をするなど、各世代にわたる環境教育を行っている。

### (2)事業者の取り組み事例から(日本石鹼洗剤工業会、食品容器成型懇話会)

- ・ 洗剤容器の中身のコンパクト化と詰め替え、付け替えの普及により使用プラスチック量の削減を進めており、製品出荷量の原単位で 30%削減を維持するようにし、十分でないカテゴリーについても今後進めていく。
- ・ PSPトレイは自主的回収も行っているが、引き取りの輸送コストはトレイメーカーが負担。一目で見分けて分別し易いのが利点。今後の課題は、集めた場所で減容化しコストを下げることである。

### (3)出された主な意見から

自治体では分別をするために判り易い説明、資料に努めているが、まだまだ難しい。業界からもより判り易い資料を提供してほしい。△マークの数字の6は何を意味するのか？(回答:PSの材質番号である。) ……注) 米国プラスチック産業協会作成のSPIコードで、ポリスチレンの材質の番号。

国際的に使用されているが、日本国内消費のプラスチック製容器包装については、JIS準拠のPSのみを識別表示の下に表記している。

- ・ 講習会などに参加する意識の高い人はよいが、高齢者やプラスチックのことが判らない人に如何にして理解してもらい、実践してもらうかが課題である。
- ・ 判り易い、分別しやすいしくみ作りができればベールの品質も上がり、マテリアルリサイクルはもっと進むのではないか。そのために、材質マークや数字分類を活用できたら良い。他には、透明・不透明で分別することでも、良い品質を分けられる。
- ・ 分別排出したプラが最終的にどうなっているのか、どんな製品になっているのかをもっと情報発信することで、消費者の意識も向上するのではないか。
- ・ プラスチックの分別自体を簡単にして(見た目で判る程度)、汚れの取れないものは焼却するなど、もっとシンプルにしてはどうか。全てのプラスチックを分別対象にするのではなく、線引きをすることでトータルの環境負荷低減、コスト削減を目指すべきではないか。
- ・ 容り法自体が細かくて判りにくい。市民の立場に立ったしくみにするためにも、マテリアル優先の現行法の不備や矛盾点は自治体、企業もタッグを組んで政府に働きかける必要がある。

#### (4)まとめ

- ・ プラスチックは、呼称や種類も多く、紙や鉄と比較して一般市民の方には判り難いのが現状である。その中で、自治体も産業界も努力を重ね、地道に実績が上がって来ている。
- ・ 今後、分別し易いシステムを作り、分別物の有効利用の実態を明確化することが必要である。そのためには、自治体と産業界が情報提供や講師派遣等の交流を深めることが更に重要になる。
- ・ そして、行政に対しては、現在の材料リサイクル優先の容り法自体の問題点、矛盾点に関しお互いに意見を出して行くことも必要だ。